

## 令和5年度「全国学力・学習状況調査」における神屋小学校の結果について

### 【国語】

- 全体の正答率は高く、比較的優秀であると判断できる。
- 「思考力・判断力・表現力」の内、「書くこと」については、特に高い正答率を示した。また、記述式の問題の正答率も高い結果を示した。これは、これまでの総合的な学習の時間や、各教科における学習活動の中で文章を記述する時間の絶対量が増え、「書くこと」への苦手意識を持たずに取り組むことができていると思われる。
- 「話すこと・聞くこと」についても、高い正答率を示した。先述の「書くこと」と同様に、本校6年生児童はこれまでの学校教育活動全体において、自分の考えを記述したり発表したりする活動や、児童相互に考えを伝えあう活動を多く経験することにより、教科で身につけて資質・能力を発揮したりさらに高めたりすることができたのではないかと思われる。今後もこのような機会を継続して確保していきたい。

### 【算数】

- 全体の正答率は高く、比較的優秀であると判断できる。
- 「思考・判断・表現」の問題のうち、数学的に思考し、それをもとに判断したり、その判断理由を数学的な見方をもって説明したりする問題に高い正答率を示した。先述の国語同様、文章を書くことへの抵抗感の無さがこちらでもうかがえる。
- 算数科もその教科特有の資質・能力を生かし、それを言語で表現していくことが求められていると本調査からは推察できるので、今後も数学的に思考したり判断したりする活動を、題材（教材）を変えながら繰り返し経験させたい。

### 【児童質問紙】

- 自己肯定感が高く、物事に対して前向きに取り組む姿勢がうかがえる。昨年来、担任を中心に児童の人間性に寄り添い辛抱強く関わってきたこと、子ども一人一人の違いを認め、それぞれの個性を生かしていく雰囲気醸成できたことがこれら児童の自己肯定感の高まりにつながっていると考えられる。
- 基本的な生活習慣に関わる質問に対しては県・全国平均より高い数値を示し、家庭が安定していることが伺える。また地域のつながりも他に比べ強く、学校も単学級でクラス替えもないので、子どもたちは変化の少ない安定した環境に身を置いて、家庭・地域・学校に見守られながら安心して素直に育っていると思われる。
- 英語学習を好意的に捉えている児童が多い。「英語の勉強は好きですか」「英語の勉強は大切だと思いますか」「将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか」という英語に関する質問についてはいずれも高い数値を示した。ALT 授業の充実、外国語科専科教員の配置が功を奏したと思われる。
- GIGA スクールの進展の一方で、子どもの読書離れも進んだと思われる。「学校の授業時間以外に、普段（月曜から金曜）、1日当たりどれぐらいの時間、読書を読みますか（教科書や参考書、漫画、雑誌は除く）」という質問に対し、「全くしない」と回答した児童は42.9%、「10分以下」と合わせると60.8%であった。これらに対する方策として、学校生活の中で積極的に電子書籍を利用することも視野に入れたい。より読みやすいフォントを採用する、ルビを付けて親しみやすくするなどの工夫をすれば、紙の「本」にハードルの高さを感じている児童にとってはむしろ歓迎される媒体になるかもしれない。